役割書 ― 舞台監督

概要・責任範囲

舞台監督は**全係（照明・音響・大道具・小道具・キャスト）への合図出しと進行管理**を担当する。本作は場面転換の回数が多く、特に**ACT6クライマックス（SE1「雷鳴・時計塔」）**は照明・音響の同期タイミングを最終判断する最重要ポイントであり、舞台監督の合図の正確さが公演全体の完成度を左右する。

必要人数・役割分担

人数	役割
1人目	メイン進行・全体の合図出し
2人目（余裕があれば）	タイム計測・記録係、サブ合図

目安：1〜2人体制

合図の方法

- 手信号・声かけ（小声）を基本とする
- 暗転中は各係が動きやすいよう、事前に「何秒で何が起こるか」を共有しておく
- SE1「雷鳴・時計塔」のような複合キューは、事前に「せーの」の出し方を照明・音響とすり合わせておく

場面転換の4ステップ（毎回この順番で）

1. セリフ・演技の区切りを確認する

2. 照明係へ暗転の合図を出す
3. 大道具係へ搬入・搬出の合図を出す（目安秒数は`役割書_大道具係.md`参照）
4. 準備完了の報告を受けたら、照明係へ明転の合図を出す

本番当日のチェックリスト

開演前（全係に確認）

- [ ] 照明係：ストロボ機能・色フィルターの準備完了
- [ ] 音響係：BGM・SE音源の再生テスト完了
- [ ] 大道具係：デロリアン張りぼて・全セットの配置完了
- [ ] 小道具係：全小道具の位置・LED電池残量確認完了
- [ ] キャスト：全員着替え・立ち位置確認完了

本番中

- [ ] 各場面転換の秒数が目安内に収まっているか随時確認
- [ ] SE1「雷鳴・時計塔」の合図を照明・音響と正確に合わせる（最重要）
- [ ] トラブル発生時は無理に予定通り進めず、安全を最優先に判断する

リハーサル管理

リハーサルごとのチェック項目

- [ ] 各ACTの所要時間を計測し、40分の枠に収まっているか確認する
- [ ] 場面転換の秒数を記録し、目安を超える転換があれば大道具係と改善策を相談する

リハーサル後にやること

- 計測結果を`生徒用/変更点.md`または別紙の記録に残す
- 大きな変更（演出変更・キュー番号の変更等）があれば台本・役割書に反映する

練習スケジュールの目安

`企画書.md`「8. 練習スケジュール」を参照。配役決定後に具体的な日程を設定する。

ゲネプロ（最終リハーサル）でチェックすること

- [ ] デロリアンの搬入・搬出秒数
- [ ] SE1「雷鳴・時計塔」の照明・音響同期（2回以上）
- [ ] ダンスパーティ会場の設営・撤去秒数
- [ ] 全体の上演時間が約40分に収まっているか

最重要複合キュー対応：ACT6クライマックス（SE1「雷鳴・時計塔」）

タイムライン（目安）

タイミング	内容	担当
クライマックス開始30秒前	音響係へ「まもなく」の合図	舞台監督
10秒前	照明係へストロボ準備の合図	舞台監督
0秒（本番トリガー）	「せーの」の合図で照明ストロボ開始と同時にSE1最大音量を再生	舞台監督→照明・音響
直後	SE2（デロリアン起動音）を重ねる	音響係
直後	白フラッシュ最大→暗転	照明係
暗転中（約20秒）	デロリアンを台車で袖へ引き込む	大道具係

このキューはリハーサルで**必ず2回以上**通し練習し、合図のタイミングのズレを本番前に解消しておくこと。

トラブル対応

- 小道具の受け渡しが間に合わない場合、セリフで間をつなぐようキャストと事前に打ち合わせておく
- LED（フラックスキャパシタ等）が点灯しない場合も、演技・セリフでカバーできるよう代替の段取りを決めておく
- 暗転が長引く場合は、BGMを少し延長して間をつなぐ（音響係と事前に合意しておく）